

# 次年度以降の進め方(案)

平成27年度 第2回 海洋・宇宙連携委員会

平成27年3月9日

---

# 目的・経緯

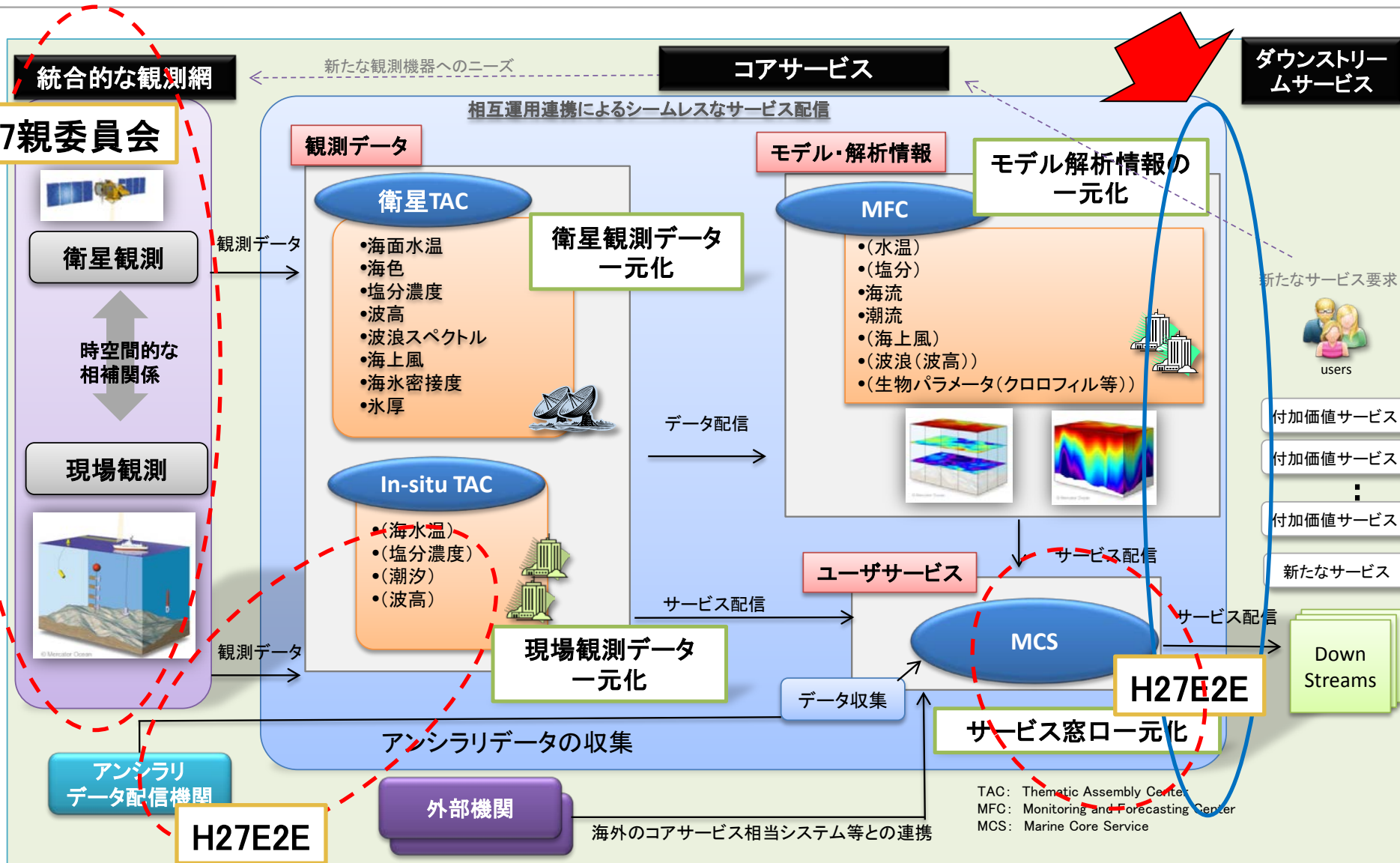
## ■ 目的

- 本作業は、現在、JAXA衛星が観測しているデータの成果の最大化を図るとともに、将来の衛星計画の立案に資するものである。
- 以下に記述する経緯を踏まえ、上述の目的のために、平成27年度の活動結果を受け、平成28年度以降の活動について、ご議論いただくものである。

## ■ 経緯

- 海洋基本法の作成に密接に関係した有識者、ならびに海洋観測データを用いた研究や実利用分野での利活用を積極的に行っている研究機関、大学、企業等の有識者により構成される「海洋・宇宙連携委員会」を平成20年度に設置し、海洋と宇宙が連携する具体的な施策について詳細な検討を継続して行ってきた。
- その過程において、海洋状態把握のためのデータ処理解析には共通的な技術要素があること、各分野を横断し、衛星観測と現場観測を含む種々の観測データを相互補完する形で一元化・統合化し、こうして得られた観測データをモデルに同化し、それに基づいて予測・予報情報に高度化するための核となるシステム・サービス（「コアサービス」と呼ぶ）が我が国に必要であるとの結論に至った。
- 平成27年度も、我が国でのコアサービスの実現に向けた具体的な活動に対し、その方向性や内容等についての検討、審議を行うため「海洋・宇宙連携委員会」を継続し、また、エンドユーザの利用ニーズに対応する海洋情報提供サービスを事業として展開する観点からコアサービスへの要求条件を明確にするため、「海上安全・海洋再生エネルギー」、「水産・沿岸環境」のユーザグループ（E2E分科会）を継続することとし、それぞれにおいて議論を行っていただいた。

# 本年度の検討と次年度以降の重点部分



これまでの検討で不足している部分

次年度以降の重点部分

## 次年度以降の活動の考え方

- これまで、以下のように段階的にコアサービスについて技術的検討を進めてきた
  - 第1段階: コアサービスのコンセプトの検討
  - 第2段階: コアサービスの具体化
    - 衛星TAC、MFCを中心に
  - 第3段階: 上記以外の部分の具体化 ← 本年度の中心作業
    - In-Situ TAC、アンシラリ、MCS(ヘルプ、品質管理)、統合観測網、など

- 次年度以降は、コアサービスについての検討が一段落したことから、これまでの活動の継続に加え、

- コアサービスを活用するダウンストリームとの連携

を重視した活動を行っていくことを想定している

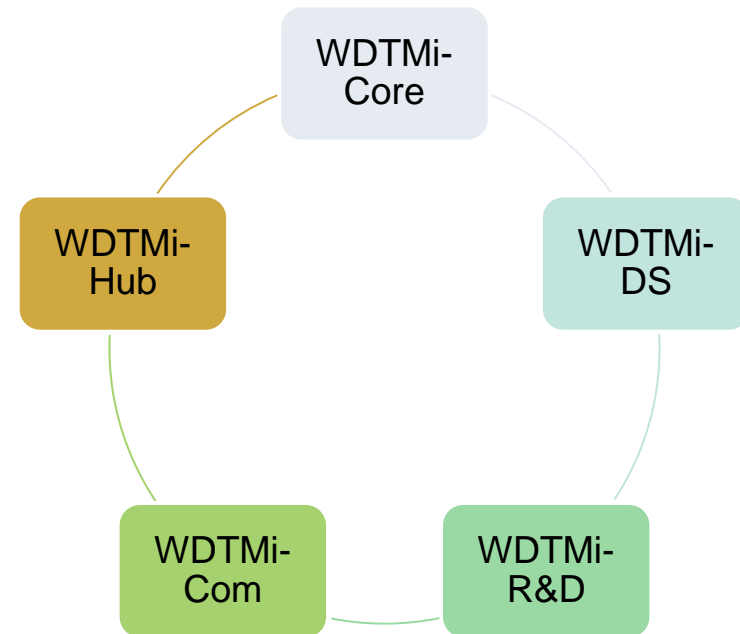
- 具体的には、システムの試用とフィードバック、ユーザ側が利用をイメージしやすいような事例集の作成、共通的な解析機能の追加の検討、等を検討している。
- 並行して、これまでのコアサービスの検討結果については、検討時からの情勢の変化に伴う見直しを行う

# プロジェクト名称:WDTMi

## WDTMi(海神): Way for realizing your Dreams Through Marine-related information

### 5つの要素から構成

- 共通インフラ(J-core)構築 WDTMi-Core
- ダウンストリームプロジェクト WDTMi-DS
- 研究開発プロジェクト WDTMi-R&D
- ユーザ・コミュニティ運営 WDTMi-Com
- 国際連携 WDTMi-Hub



## WDTMi-Core

海洋に関わる衛星および現場の観測データとモデル・解析結果の情報・データを集約・管理・提供する共通インフラを、我が国に構築するプロジェクト。ユーザーニーズに基づき、JAXA衛星のみならず、諸外国の海洋観測衛星のデータや現場観測のデータを一元的に提供することを目指している。

- ターゲットユーザの再確認(付加価値ユーザ、一般ユーザ、研究ユーザ、等々)
- ユーザ層拡大に向けた海洋データ利用事例集の作成・公開
  - これまでの利用事例から作成
  - 具体的なWeb GIS画面も併せて作成
- データ入手先との調整
  - 受信局連携、In-Situデータ、アンシラリデータ
- ユーザ要求書更新
  - 高次プロダクト(L4等)の検討・具体化
  - プロダクトリスト等の見直し
- システムの検討
  - サーバ、クライアント(検索、入手)、ユーザ認証
  - 国内外外部システムとの連携
  - 解析機能の検討 ⇔ ビジネスベンチマーク活動(フェーズ2)と連携

# WDTMi-DS

海洋情報・データを活用したビジネス・サービス(ダウンストリーム産業)のプロジェクトである。WDTMi-Coreと対をなし、WDTMi-Coreから提供される情報・データを活用して、既存ビジネス・サービスの発展・高度化、新たなサービスの開発・提供を行う付加価値事業者との活動

## ■ ビジネスベンチマーク活動(フェーズ2)

### ■ 水産、環境、海運、資源・エネルギーといった分野のユーザによるオフライン試作システムを用いたシステム試用、フィードバック

- E2Eメンバから参加者を募集
- 半年ほど利用していただき、問題点、課題、等をフィードバックしていただく
- これまで利用シナリオの検討を行った分野(水産、環境、海運、赤潮、現場観測連携、等)は重点的に

### ■ (可能な範囲で)参加者の実業務のユーザの分析なども検討

### ■ 共通的に必要な解析機能が抽出された場合はコアサービスへの追加を検討

## ■ 活動範囲拡大(≡他分野への展開)

### ■ これまでと同様に、コアサービスの利用シナリオの検討を行う

- 分野設定
- ニーズ・課題整理
- オフライン試作システムの試用

## WDTMi-Com

全ての活動は全てユーザニーズに基づいて行っている。JAXAでは環境、水産、海上安全、資源・エネルギー、セキュリティといった海洋に関わる様々な事業者・研究者を集めたユーザ・コミュニティを形成し、長年にわたり意見収集・意見交換を行い、WDTMiがユーザニーズを反映したプログラムとなるように努めている。このユーザとの接点となる活動がWDTMi-Comである

### ■ 海洋・宇宙連携委員会および分科会

#### ■ 海洋・宇宙委員会は継続

- 引き続き、大所、高所から個別活動の進捗・方向性、政策との連動方策などについてアドバイスいただく

#### ■ 分科会は(再編して)継続

- ビジネスベンチマーク活動(フェーズ2)参加者のコミュニティを設置、等

### ■ その他の活動(案)

#### ■ ワークショップ開催

- 海洋・宇宙連携の活動の発展に向けて、さらなる情報収集・フィードバックを得るためのワークショップ等の開催を検討



## WDTMi-Hub

WDTMiではJAXA衛星以外の衛星データについても提供を予定しており、欧州のCopernicus等の諸外国の類似プログラムとの連携を計画している。この諸外国との連携活動をWDTMi-Hubと呼ぶ

- Copernicusとの対話の再開
  - J-Coreのステータスの報告
  - 具体的な協力のスタート
    - 技術接続性試験の検討、等
- 国際的な枠組みを通じた活動の発信
  - CEOSを通じた発信、等

---

## WDTMi-R&D

WDTMi-CoreやWDTMi-DSの活動を実現するために必要となる技術の開発を行う活動  
従来の衛星データの提供方法を超えたユーザの利便性を考慮した共通インフラの実現に向けて研究開発を行っている

- 各活動を通じて必要となる技術等について研究開発を行う
  - Web GIS（特にクライアントシステム）
  - 解析機能
  - 高次プロダクト